

令和 8 年度

丹波篠山黒豆情報

令和 8 年 8 月 27 日

第 2 号

丹波篠山市・JA丹波ささやま・NOSAIひょうご丹波篠山事務所・丹波農業改良普及センター

* 丹波篠山市内 6 カ所に調査定点を設置しています。

【生育】（令和 8 年 8 月 21 日 丹波篠山市定点調査結果より）

	主茎長 (cm)	主茎節数 (節)
令和 8 年	75.3	18.8
平年(過去 10 カ年平均)	68.9	17.8
平年比	109%	106%
令和 7 年(参考)	72.8	18.9

* 平年値は、平成 28 年から令和 7 年の過去 10 年間の平均値

- ・ 定点ほ場 6 カ所の主茎長と主茎節数は平年（過去 10 カ年平均）比ともに 109%、106% と平年より早い生育となっています。また、主茎長は前年比 103%、主茎節数は 99% と同様に推移しています。
- ・ 7 月期の調査では主茎長が平年を下回っていたものの、梅雨明け後の高温少雨・多照傾向やかん水等の水管理によって平年より生育が上回っています。

【病害虫】（令和 8 年 8 月 21 日丹波篠山市定点調査結果より）

	立枯性病害 株率 (%)	ウイルス病 株率 (%)	ハスモンヨトウ 虫数/株	カメムシ類 虫数/株	アブラムシ類 頭/小葉	ハダニ類 頭/小葉
令和 8 年	0.00	0.83	0.00	0.15	0.00	0.17
平年(過去 10 カ年平均)	3.17	6.08	0.15	0.04	0.01	0.37
平年比	0%	14%	0%	417%	0%	46%
令和 7 年(参考値)	2.00	0.83	0.00	0.05	0.00	0.00

- ・ カメムシ類とハダニが一部ほ場で発生しています。
- ・ サヤムシガの被害株が一部ほ場で、フタスジヒメハムシの被害株が多くのは場でみられます。
- ・ 立枯性病害（茎疫病・白絹病など）やウイルス病は平年と比べて発生が少ない状況です。
- ・ ベと病が多発している地域があります。
- ・ ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺数は、平年並みで推移しています。一方、8/21 時点で 1 週間の誘引数が 150 頭を超えている地域がありますので定期的な防除を心がけてください。

べと病



【今後の対策】

1 適期かん水

・近畿地方の向こう3カ月予報として、9月以降も数日の周期で天気が変わり、10月は平年同様に晴れの日が多い予想です。裂皮粒の発生を軽減するため、土壌が乾燥する日が続く場合は、かん水アラート情報やほ場の状況を確認し、適宜かん水を実施してください。

2 病害虫対策

- ① ほ場によって発生程度に差が見られます。特に、フタスジヒメハムシ、カメムシ類などは、着莢期・莢肥大期に莢を吸汁・食害して被害が大きくなるため、定期的な薬剤防除を徹底しましょう。
- ② べと病が多発している地域があり、過繁茂による多湿が原因と考えられます。病勢が進むと、落葉が起こり、生育不良による品質低下につながります。被害を抑えるため、早めの防除を心掛けてください。



上記の「薬剤防除」における防除薬剤については、必ず「丹波篠山黒大豆栽培こよみ」で確認してください。

3 立枯性病害（茎疫病）対策

- ・茎疫病など立枯性病害が発生した場合は、発病株を早急に抜き取り、抜き取った株は、ほ場外に持ち出して処分しましょう。
- ・今後、茎疫病の発生拡大が懸念されます。予防防除を主体に、定期防除に努め、薬剤が株元に十分かかるように心がけましょう。

4 排水管理

- ・湿害や茎疫病等の立枯性病害の対策として、停滞水がある場合は排水溝や排水口の整備を行い、早急にほ場の排水を図ってください。



【参考：気象データ※丹波篠山市消防本部気象データ参照】

